事業等名 担当部局 農業支援サービス事業育成対策(令和5年度要求) 農産局技術普及課 【現状・課題】 (現状・課題を示すデータ) 農業者の一層の高齢化と減少が急速に進むことが見込まれる中、将来的に農業生産を維持・拡大し •基幹的農業従事者数 ていくためには、生産コスト低減などに効果がある農業機械のシェアリングやドローンによる農薬散布代行 (175万人(H27年)→136万人(R2年)) 等の新たなサービス等を早急に展開していく必要がある。一部産地で農業支援サービスの取組が始まって ・1 経営体当たりの平均規模 いるものの、機械等の初期費用の負担、専門人材の不足、ニーズが把握出来ていない等の課題により、 (1.56ha (H7年) →3.05ha (R2年)) 十分な広がりは見せていない現状。 アウトカム アウトカム アウトカム インプット アクティビティ アウトプット インパクト (短期) (中期) (長期) R5要求額: 農業支援サービス事 採択した事業者数 直接支援した農業支 経営改善(生 農業支援サービス 農業支援サービス 273 業者に対し、以下のよる 援サービス事業の利用 → 事業を利用する割・ 産コストの低減 を利用する者の経 R4:100 うな事業立ち上げ当 R4:8 が増加 や労働力確保、 合が増加 営が改善 R3:95 初の取組を支援 R3:7 技術導入など) 指標 指標 R2:なし R2:なし により個別経営 1 (2) ・ビジネス確立のため 体の生産性が向 (百万円) のニーズ調査 トし、農業者の ・デモ実演等に必要な 一層の高齢化と 機械・システムの改修 減少が急速に進 やデータ収集 む中にあっても農 ・農業支援サービス事 業生産が維持・ 業体が行う人材育成 (研修費等) 等 指標 3 事業実施主体の設定する成果目標(サービスを活用する経営体数)の事業 食料自給率(牛産額ベース) 指標 実施年度における目標達成率 指標 R12年度:75% R3年度:● 1 R4年度目標:40% R 5 年度目標: 50% 農業支援サービスの利用を希望する農業の担い手のうち、実際に利用できて 指標 いる者の割合 R5年度目標:30%、R6年度目標:50% 最終目標年度R7:最終目標80%

外部の影響要因

・担い手への農地集積の進展 ・スマート農業の進展 ・生産資材価格